

名古屋市市民活動促進基本方針改訂版(案)に対する
市民意見の内容及び市の考え方

令和4年3月

名古屋市

目 次

名古屋市市民活動促進基本方針改訂版(案)に対する市民意見の概要……………	1
名古屋市市民活動促進基本方針改訂版(案)に対する主な市民意見の内容及び市の考え方…	2
1、方針全般について……………	2
2、これまでの施策の経緯と取り組みについて……………	3
3、市民活動を取り巻く現状と課題について……………	3
4、基本理念について……………	3
5、施策の方向性と取り組みについて……………	4
方向性1 市民の市民活動への参加促進と意識の醸成……………	4
方向性2 市民活動団体の運営基盤強化と社会的課題解決力の向上……………	4
方向性3 多様な主体との連携・協働の促進……………	5
6、推進について……………	6
7、その他……………	6

名古屋市市民活動促進基本方針改訂版(案)に対する

市民意見の概要

「名古屋市市民活動促進基本方針改訂版(案)」に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、ご意見の内容は、一部要約または分割して掲載しましたのでご了承ください。

1 意見募集期間

令和3年11月24日（水）から令和3年12月24日（金）

2 意見提出状況

提出方法	電子メール	郵送	ファックス	合計
提出者数	3名	0名	1名	4名
件数	10件	0件	5件	15件

3 意見の内訳

項目		件数
1、方針全般について		3件
2、これまでの施策の経緯と取り組みについて		1件
3、市民活動を取り巻く現状と課題について		1件
4、基本理念について		2件
5、施策の方向性と取り組みについて		6件
	(1) 方向性1 市民の市民活動への参加促進と意識の醸成	(2件)
	(2) 方向性2 市民活動団体の運営基盤強化と社会的課題解決力の向上	(3件)
	(3) 方向性3 多様な主体との連携・協働の促進	(1件)
6、推進について		1件
7、その他		1件
計		15件

名古屋市市民活動促進基本方針改訂版(案)に対する

市民意見の内容及び市の考え方

1、方針全般について 3件

世界や国際関係に目を向けた活動は、行政がその重要性を意識しないと醸成できない。この方針においても、世界や国際感覚や外国人への視点に目も向ける必要がある。

【市の考え方】

本市でも国際協力の分野で素晴らしい活動をされている市民活動団体が多く存在していることを認識しております。今後も国際協力の活動をはじめ、あらゆる分野で活動されている市民活動団体の支援を行ってまいります。

NPO法人中心の基本方針と感じる。組織とはもっとも効果的な支援や活動等を比較し選択するものなので、任意団体についての位置づけ、大切さもお考えいただきたい。

【市の考え方】

「名古屋市市民活動団体の実態調査（令和2年度実施）」において、任意団体に対し今後のNPO法人格取得の検討状況をお聞きしたところ、多くの団体が必要性を感じないと回答をしており、自団体の特性に応じて法人格の有無にこだわらず活動を行っていることを認識しております。任意団体につきましても市民活動を行う重要な主体であり、今後もNPO法人格の有無に関わらず支援を行ってまいります。

地域の社会的課題に市民が気づき、ジブンゴトとしてとらえることが活動の第一歩であるとの指摘は深く共感する。しかし市民が気づいた社会的課題は、すべてが市民活動だけで解決できるものでない。社会的課題の解決には、主権者としての成長を促す教育的配慮もぜひ意識していただきたい。

【市の考え方】

社会的課題に対して市民活動は、先駆性や多様性・柔軟性といった特性を活かし、行政とは違う立場で取り組み、多様化する市民ニーズにサービスを提供する主体として、大きな役割が期待されていると認識しております。また、市民活動には保健・医療・福祉をはじめ、様々な分野があり、ご意見の様な社会教育の推進も含め、今後も引き続き市民活動の支援を行ってまいります。

2、これまでの施策の経緯と取り組みについて 1件

「ファーストキフ」と「ぼらチャリパーク」と併記されているが、「ぼらチャリパーク」は1日イベントの名称であり、一方で「ファーストキフ」は複数のイベントの総称であるため、表現を統一してほしい。

【市の考え方】

ご意見を踏まえ、「ぼらチャリパーク」ではなく、総称である「ぼらチャリ」と表現を修正いたします。

3、市民活動を取り巻く現状と課題について 1件

新規設立に加え、活動休止解散の団体数を調査結果として示していただきたい。

【市の考え方】

ご意見を踏まえ、全国と市内に主たる事務所を有するNPO法人の解散数の推移を記載いたします。

4、基本理念について 2件

「plus+」とは何かについて、定義や説明がなく分かりにくい。「plus+が創る」とあるが、「何を創る」のか目的語がなく、「想いがつなぐ豊かな未来」のことなのか、「わたしからみんなへ」を創出するのか読み取れない。

【市の考え方】

「plus+」とは、「わたし」が社会的課題をジブンゴトとしてとらえる「気づき」や、活動する仲間が集まり「みんな」で始めること、多様な主体と「連携・協働」することなどを指しており、それぞれの「plus+」がつながり、新しいアイデアや解決策など社会的課題の解決に向けた新たな価値が創造され、めざすまちの姿である「想いがつなぐ豊かな未来」が実現できるよう取り組んでまいります。

「フィールド」という表現は、いまひとつ分かりにくい。たとえば「ステップ」という表現の方が分かりやすいのではないか。

【市の考え方】

本方針における市民活動はそれぞれが重要な活動と認識しており、必ずしも優劣の関係で表現ができないため、ステップではなくフィールドという表現としております。

5、施策の方向性と取り組みについて 6件

(1) 方向性1 市民の市民活動への参加促進と意識の醸成 2件

市民活動の情報は、インターネット等で広く報告書や計画などが閲覧できることが望ましく、可能であれば名古屋市のウェブサイトからもアクセスが出来るとよい。また、市民活動のイベントについても周知を工夫し、参加者が集まり難い活動も周知されるようになるとうい。

【市の考え方】

市民活動推進センターのウェブサイトにて、市民活動団体の活動情報やイベント情報、団体のウェブサイト等を掲載しているほか、特定非営利活動法人の定款や事業報告書等を掲載している内閣府のウェブサイトもご案内をしており、今後とも一層効果的な情報の収集・発信機能の充実を図って参ります。

参加の促進について、社会教育・生涯学習との連携・協同を意識的に行うべきである。名古屋市では、生涯学習センターでの連続講座などから多くの貴重な市民活動を生み出してきた。市民が様々な社会問題、地域課題に関心を持つ場、仲間づくりの場として、所管部局の違いを超えて連携すべきである。

【市の考え方】

これまでも生涯学習センターとは、相互に講座の情報を共有し発信するなど連携をしてまいりました。今後もしっかりと連携し、市民の市民活動への参加促進につながるよう取り組んでまいります。

(2) 方向性2 市民活動団体の運営基盤強化と社会的課題解決力の向上 3件

主な取り組みの中に「市民活動団体へ資金がまわる仕組みの調査・研究」というタイトルがあるが、なごやNPO応援寄附金は既に実施しているので、「調査・研究」だけではないのではないか。

【市の考え方】

ご意見を踏まえ、タイトルを「市民活動団体へ資金がまわる仕組みづくり」と修正させていただきます。

「休眠預金」について、方向性の中に言及がないが必要ではないか。

【市の考え方】

休眠預金等を民間公益活動に活用できる制度につきましては、市民活動団体の組織運営体制の強化や、団体の活動資金調達のための支援の観点から重要な取り組みであると認識しており、これまでも当制度に関する情報発信を行ってまいりました。今後も市民活動団体が制度を活用できるよう、引き続き取り組んでまいります。

活動休止や解散の理由と原因を分析し、活動がうまくいかず苦勞している現場の様子なども紹介することで、どんな支援が必要か、支援の方向性が示せるのではないかと。

【市の考え方】

「名古屋市市民活動団体の実態調査（令和２年度実施）」において、活動資金や人材の確保等に苦心していることや、新型コロナウイルス感染症拡大により、活動の中止や収入の減など大きな影響が出ていることが分かりました。こうした現状を踏まえ、新たな生活様式への対応支援を含めた市民活動団体の運営基盤強化に繋がる支援等を行ってまいります。

（３）方向性３ 多様な主体との連携・協働の促進 １件

多様な主体との連携・協働の促進について、企業との連携の促進がうたわれているが、協同組合、労働組合、社会福祉法人などの非営利組織や、病院ボランティアや保育園の保護者会など市民の自主的な形態の組織、町内会・自治会をはじめとした地域団体との連携を進め、市民活動団体の組織運営のノウハウや人材が生かせるような連携・協働をすすめていきたい。

【市の考え方】

複雑化・多様化する社会的課題に対応するためには、市民活動団体と多様な主体がそれぞれの持つ強みを活かし、連携・協働する仕組みや機会の創出が必要と認識しております。市民活動団体が企業のみならず、社会的課題の解決に向けて取り組んでいる地域団体や、社会福祉法人など多様な主体と連携・協働が促進されるよう支援を行ってまい

ります。

6、推進について 1 件

成果目標は「活動に参加している市民の割合」だけでなく、この方針独自の指標を複数設定すべきではないか。また、有識者だけでなく、方針の進捗状況や市民活動推進センターの事業実績の報告・検証の場を、市民にひらくことを要望したい。

【市の考え方】

成果目標につきましては、本方針の全体目標として、本市の上位計画である「名古屋市長官舎計画 2023」との整合性を図りながら設定をさせていただきました。また、本市の市民活動施策における方向性や内容等を検討するにあたり、市民活動に関する造詣の深い学識経験者、市民活動を行っている当事者である市民活動団体や、企業、行政等で構成する「市民活動の推進にかかる懇談会」を毎年公開形式で開催し、取組みの状況を確認するとともに、市民活動に関する情報や課題を共有し、その後の施策の展開に結びつけ、本市の市民活動の促進を図ってまいります。

7、その他 1 件

基本方針策定には市民が参加したワークショップを行うなど、方針策定段階から「参加と協働」をデザインすることもできたのではないかと。

【市の考え方】

方針策定段階においては、「市民活動の推進に係る懇談会」を公開形式で開催し、市民活動に関する造詣の深い学識経験者、市民活動を行っている当事者である市民活動団体や、企業、行政、関係機関など多様な立場の方から意見を聴取して検討を進めてまいりました。